

ポイント1 漢字で教える

いから、こうして覚えた漢字は一生忘れないはずだ、という考えです。

最初から正しい文字を

わが国の文字教育は、明治以来、
「まずかなで読み書きすることを教え、
それに習熟させた後でないと漢字を

教えない」ということになっています。

例えば、“がっこう”という便宜的ないわば偽物を学習させ、それを習熟させた後に“学校”という本物を学習させているものですから、漢字の学習が必要以上に難しくなるのです。

“学校”という漢字で学習してこそ、“学びや”の意味が正確に理解でき、それが“学問”や“大学”にも結び着いて理解が深まるのであって、“がっこう”では“がくもん”と少しも結び着きません。

現代の心理学は、記憶について「覚えようと努力して覚えたものは忘れるが、覚えようと努力しないで覚えたものは忘れにくい」と述べています。

“漢字で教える”というのは、漢字を覚えることを目的とさせないために考え出されたものです。漢字は教育の手段であって目的ではな

コラム

部首 宀

屋根のある家の象形字。家の意味の他に“上から覆う”。

【宮】 躬(身体)の意味の呂と宀との会意形声字で、“身体を休める家”という意味。“立派な住居”として使われる。「宮殿」「神宮」。

【宝】 宝玉の意味の玉と宀との会意字で、“たから物”を表す。玉は代表的な財宝で家に大切に保存しておくべき物だ、ということで玉を宀で包んだ。